金城学院大学　シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	37620001
授業科目名(Course name)	ピアノアンサンブルＡ		
担当者(Instructors)	寺田 史人		
開設学部学科(Department)	文学部　音楽芸術学科	科目分類番号(Course classification number)	262
開講クラス(Class)	音２ピ	開講形態 (Course format)	演習
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	2
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	前期 火曜１限	担当形態 (Instructor format)	単独
実験実習費（円）(Experiment/training fee (yen))	2,000	履修者数上限（名）(Maximum number of students)	

他学部他学科生履修不可(No other undergraduate departments students can study)

■授業の概要(Course outline)

ヴァイオリン奏者である講師と、ヴァイオリンソナタをはじめとするピアノとヴァイオリンの室内楽の曲を演奏し（学生はピアノパートを担当）、アンサンブルの仕方、演奏としての音楽の作り方を学びとってもらう。１講義につき２～３名の学生に演奏してもらい、ほかの楽器とのアンサンブルにも役立つような内容を、様々な角度から解説を交えながら進めていく。 講座の終盤にはチェリストを加えてピアノトリオも行い、より経験を深める。

■到達目標(Course goals)

演奏会で室内楽、伴奏、協奏曲を弾くときに役立つ知識、表現力を身につけている。

■履修上の留意点(Important points)

ピアノの演奏ができる学生。

■学位授与方針 (Diploma policy)

１．知識・理解

音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 ◎

２．汎用的技能

日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。 ◎

３．態度・志向性

自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 ◎

■授業計画(Lesson plan)

1. オリエンテーション、選曲（楽曲の割り当て）
2. ドヴォルザークのソナチネ　モーツァルトのソナタ（Ｇ－ｄｕｒ）
3. エルガー愛の挨拶、朝の歌　チャイコフスキーのカンツォネッタ（ヴァイオリン協奏曲２楽章）
4. ベートーヴェンのソナタ第８番
5. スメタナのわが故郷

6. ベートーヴェンのソナタ第１０番
7. モンティのチャルダッシュ　クライスラーの愛の喜び、愛の悲しみ
8. ベートーヴェンのソナタ第５番
9. モーツァルトのソナタ（ｅ－ｍｏｌｌ）、ヴァイオリン協奏曲第４番
10. グリーグのソナタ
11. マスネのタイスの瞑想曲　クライスラーの美しきロスマリン、中国の太鼓
12. ベートーヴェンのソナタ第７番
13. ドビュッシーのソナタ　宮城道雄の春の海（ヴァイオリンとピアノ用）
14. ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのピアノトリオ
15. メンデルスゾーン、ブラームスのピアノトリオ

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)

各回の講義で、3名程度の学生に大体一つの楽章の半分くらいを割り当てて講師と演奏してもらいます。１～２週前に担当学生を知らせるので、準備をしてください。　毎回の講義で、さほど困難ではないミニレポート課題を出しますので、次の講義の時に提出してください。

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題の曲の担当楽章(部分)を一緒に演奏し、演奏改善に繋がることアドバイスします。 当該学生への直接のアドバイスはもちろんだが、それ以上に、他の学生にも当てはまるであろう点や、他の作品を演奏する際にも有効であろうことを説明することに重点を置いています。
色々な角度からの見方を教えられるように心掛けているが、それが自分にどのように当てはまり、自分はどう取り入れるかということを常に意識していないと、演奏を学ぶのではなくただ音を弾くだけの時間となるので、気をつけてください。
ミニレポートは時々発表もしてもらいます。他の学生に意見を求めることもあります。ミニレポートの最大の目的は、(講義では到底網羅しきれないが)演奏する上でせめて知っておいて欲しい、考えていて欲しいことを少しでも知る、触れることなので、自分に必要なことをまとめるということを意識してください。
必要なことが見られていないと感じた時には、次の授業で触れる(話題に挙げる)こともあります。分量は多くなくてもいいが、演奏するという点に活かそうとしていないレポートは減点の対象となり得ます。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)

ピアノの楽譜等は大学に用意したものを基本的に使用します。

■評価方法(Evaluation method)

演奏技能、内容、習熟度　60%

レポート　15%

取り組む姿勢、対応（適応）力　25%

演奏技能が高いのは、評価に結び付きやすいが、それ以上にこの講義では、短い時間で準備すること、講師との演奏での対応力、アンサンブル力、指導（指摘）への適応力、演奏感覚を向上させること、演奏に必要なことを身に着けようとする姿勢等が求められます。　パーセンテージはあくまでも目安です。

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)

講義後、或いは、事前に伝えてもらえば講義前に質問を受け付けます。　要望の曲があれば、対応可能な場合は取り上げます。